

# 佛心

二〇二三年六月号

浄土真宗 本願寺派

トロント仏教会



## 慶讃法要と 世界仏教婦人大会

先月は、西本願寺で厳修された親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年の慶讃法要に、カナダ教団のご門徒方と一緒に参拝してきました。

参拝ツアーの引率や同時通訳などで、頭と体の疲労感でいっぱいでした。しかしカナダ開教区のご門徒方が、この特別な日の法要参拝を楽しんでいるのを見て、その疲れも吹き飛ばすほどでした。

他国の真宗門徒と一緒に念仏を称えている姿は、阿弥陀如来のおはたらきが、隔てなくどこまでも至りとどいていること直感的に教えてくれます。

それぞれの念仏が小さな波だとしてら、ご影堂で聴いた念仏は、それらの波が重なり合い、一つ津波となつて押し寄せてくるようなものでした。

私たちは、ブツタや親鸞聖人の教えを、言葉（法話）を通して知ることが多いです。しかし、言葉を超えた体験は、このような儀式空間を通してしか感じる事ができないのだと改めて実感しました。

慶讃法要のあとは、2日間にわたって開催された「第17回・世界仏教婦人大会」に多くの方が参加されました。大会には二千四百人以上の参加者がいたそうです。

さまざまな催し物のあるなか、やはり人目を引いたのは「体験者発表会」というものでした。その発表会では、各国の代表者が、浄土真宗との出会いや、そのみ教えが自分の人生にどのような影響を与えたかを語るものでした。

私たちのお念仏は一つです。しかし、同じひとつのお念仏でも、その出遇いはそれぞれであると気づかされました。

それを「法縁」といいます。「法」はみ教え、縁は「出遇い」を意味します。

各国代表者の発表のなかでも私の印象に残ったのが、ブラジルの方でした。

その方の父親は、日本のお寺で長男として生まれたそうです。しかし、さまざまな理由から実家を次男に継がせて、結婚したあとは1933年にブラジルに移住しました。

文化も言語も異なるブラジルで、新たな人生を歩もうとしましたが、その道の地はなんとも険しいものでした。そのような中で、他の移住者と手を取り合い、助け合うきっかけとなったご縁も仏教だったようです。

お寺出身であったこともあり、日系コミュニティの中で法話を任されたり、病氣や過労で往生された方のために、法要に立ち会ったりしていました。

しかし、1941年11月11日、移住してわずか1年半で、心臓麻痺により突然お浄土へ旅立たれました。39歳であったそうです。

彼女は、その父が往生してから5ヵ月後に生まれ、この世で父親と直接会うことはできませんでした。

それから9年後、1950年にブラジルで初となる平安山光明寺が建立されました。そのさい浄土真宗の開教使として赴任されたのが伊藤助一氏という方でした。

彼は地域住民と協力して寺院の運営にあたり、彼女は、伊藤氏を祖父のように慕っていたそうです。

仏教寺院を通して、多くの人と出会い、助け合いながらブラジルでの生活をしていましたが、17歳のとき、彼女は病に倒れてしまいました。

意識不明の状態が何日も続いたようですが、なんとか一命を取り留めました。しかし、それから半年以上におたって治療を受け続けなければならなかったようです。

そのようなこともあり、大病を患った自分が結婚できるなんて思ってもみなかったようです。それでも、そこにも法縁があり、25歳の時、サンパウロ仏教寺院に勤めていたのちの夫と出会い、4人の子どもにも恵まれました。

開教使は、総長からの辞令で他への寺院へ赴任することがあります。彼女の夫も、いくつかの寺院に着任したようです。

その度に、二人で日本語学校をお寺で開き、子どもたちに日本語と一緒に仏教の伝道活動に一生涯を通して尽力されてきました。

彼女はスピーチの最後に「これから、母がいつも言ってくれていたように、すべて大慈大悲の親様とご先祖のおかげであると主人と共に慶び語り合います。(略)

そして、私も主人も三世代のご門主様方とお会いできたことを本当にありがたく存じ、勿体ない気持ちでいっぱいです。これもすべてご先祖や両親から受け継がれたお念仏のご縁、そして生涯聴聞させて頂きながら、嬉しい時も悲しい時も、どんな時でもすべてのご縁を慶び、お念仏とともに残り少ない人生を一日一日大切に過ごさせて頂いている今日この頃です。」と締めてくれました。

この彼女のスピーチを聞いて、私もいち開教使として考えさせられることが多くありました。

彼女は生まれる前に父親を亡くし、若くして大病を患い、他所から見れば決して豊かな人生ではなかったかもしれませんが、彼女自身も不安でいっぱいな人生だったと思われれます。

しかし、お寺や念仏のみ教えとの法縁を通して、辛いことも悲しいことも、阿弥陀如来のおはたらきをこころのよりどころとしていたことが、彼女の言葉の端々から伝わってきました。

他人からすれば不幸な人生経験も、彼女にとってはかけがえのない法縁であったということでした。

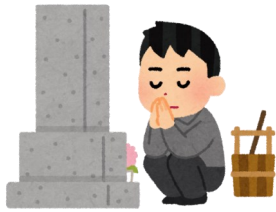
その親鸞聖人より賜った念仏のみ教えは、何十年、何百年の時が経とうと、言葉や文化が異なる国であろうと、変わることはないものです。

そのみ教えに出遇えた私たち念仏者は、これからも阿弥陀如来のご本願をよりどころとして「南無阿弥陀仏」と称えさせえいただきます。

トロント仏教会

駐在開教使 大内祐真

# お墓参りのご案内



お盆とは先にお浄土へ還って往かれた方々を偲び  
 そのお導きによって私が今、お念仏する身へと  
 お育ていただいた事に感謝する大切なご縁です。  
 是非ともご家族おそろいでお参りになって下さい。



7月8日（土曜日） お墓参り トロント各墓地

## お墓参りのスケジュール

<u>大内祐真開教使</u>		<u>スーザン恵比寿崎</u>		<u>ジェフ・ウィルソン先生</u>	
York Memorial	9:30 AM	Sanctuary	9:00AM	Meadowvale	
Prospect	10:45 AM	Riverside	9:30 AM	Glen Oaks	9:30 AM
Park Lawn	11:45 PM			Spring Creek	10:00 AM
<u>ロバート・グベンコ開教使</u>		<u>ポーリンクヌーデ</u>		<u>デニス間所</u>	
Toronto Necropolis	9 AM	Salem U.C	11AM	Elgin Mills	10:30 AM
St. James	9:30 AM	Pine Ridge	12PM	Highland Memorial	11:30 AM
Mount Pleasant	10:15 AM				
<u>ケン・シゲイシ</u>		<u>ジョン西川</u>			
Pine Hills	9:30 AM	Glendale	9:30 AM		
Resthaven	10:45 AM				

## 盂蘭盆会法要（お盆）のご案内

日程：2023年7月8日（土） 午前：お墓参り  
 午後：盆踊り @JCCC  
 2023年7月9日（日） 午前9時：初盆法要  
 午前11時：英語盂蘭盆会  
 午後1時：日本語盂蘭盆会

初盆法要ならびに盂蘭盆会法要に関して質問のある方は、当寺院の事務所  
 < tbc@tbc.on.ca >までご連絡下さい。※JCCC盆踊りに関しましてのお問合せは、  
 JCCCまで宜しくお願い致します。

今年はカルガリー仏教会のロバート・グベンコ開教使をトロント仏教会の  
 盂蘭盆会法要に招いてご法話をいただきます。大変ユーモアのある先生で、柔ら  
 かい口調で優しく仏さまの教えを説いて下さる方です。是非ともご家族そろって



# 祥月法要のお知らせ

**2023年 7月 2日**

祥月法要とは、祥月命日（故人が往生された月のご命日）をご縁として仏法に遇い、阿弥陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めする法要です。

日時：2023年7月2日（英語：午前11時から）（日本語：午後1時から）

場所：トロント仏教会

**※英語法要のみZoom配信をさせていただきます。**

ZOOMでの参拝を希望される方は、その旨を<tbc@tbc.on.ca>までお知らせください。寺院事務所からzoom link を送らせていただきます。

故人が祥月でない方もご遠慮なくご参拝下さい。

